

アンナ・マリコヴァ

1993年のミュンヘン国際音楽コンクールで優勝し、1990年ショパン国際ピアノコンクールでも入賞を果たしたウズベキスタン出身のアンナ・マリコヴァさんが昨年11月から12月にかけて来日し、東京、大阪、神戸、新潟、金沢など、全国各地でショパン国際ピアノコンクール in ASIA の地区大会審査とプライベートレッスンを行った。マリコヴァさんはショパンの練習曲、前奏曲、即興曲、ピアノ協奏曲などの各全曲や、シューベルト、リスト、 Brahmsなど多くのCDを録音しており、2006年にはサンクトペテルブルクを受賞した。ロシア作品としては、

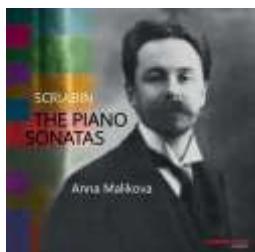
「ソナタ全集」が完成した。

「スクリヤービンほど音楽のスタイルが変化した作曲家はないでしょう。特に10曲のピアノ・ソナタは、初期の作品はショパンの影響を受けて聴きやすくロマンチックですが、後期の作品は神秘主義的で調性を越えた独創的なスタイルに変わっていきます。第5番以降のソナタは単一楽章で、初めて聴くと全部一緒にのように感じるかもしれません、それぞのソナタのキャラクターは全然違っています。普通の作曲家が、構成や形式が複雑で難しいソナ

タを作ろうとすると、モティーフやハーモニーなど、たくさんの素材が必要です。ところがスクリヤーピンは4、5つのモティーフだけで考へている構成や形式を完璧に組み立てられる。そして感情や感動やおもしろさがある。こんなにすごい作曲家は他にいないと思います。私は神や宇宙、神秘的なテーマに興味があり、スクリヤーピンはとても好きな作曲家です」

CDの収録はカワイのドイツの廻充拠点、ケレフェルトで行われた。使用ピアノはShigeru Kawai[®]。スクリヤーピンの音楽をよく理解しているディレクターと、サウンドエンジニア、調律師のチームで、とても満足いく収録ができたと話す。

スを受け持つ予定です。マスター・クラスの受講者は、スクリヤー・ビンのピアノ・ソナタを弾くことになつていて、ですが、私は全曲弾いて録音しているので、自分が理解したことを若い人たちに説明することはとてもうれしく、大変楽しみです！」



『スクリヤーピン ピアノ・ソナタ全集』
ACOUSENCE ACO-12214 納入盤
[曲目] スクリヤーピン：ソナタ第1番、
第2番《幻想》、第3番、第4番、
第5番、第6番、第7番《白ミサ》、
第8番、第9番《黒ミサ》、第10番

スクリヤーピン
ピアノ・ソナタ全集を
リリース
「こんなにすごい作曲家は
他にいないと思います」



マリコヴァさんは多忙な演奏活動に加えて、後進の指導、育成にも力を注いでいる。

「ピアニストとして、演奏活動はずっと続けたい。同時に定期的に行っているマスタークラスでの指導も難航したいと思っています。自分の経験を若い人たちに伝えることは大変おもしろく、楽しいことです。今年はスクリャーピンの没後100年の年で、いろいろなイベントが予定されていますが、オーランドのクラコフという街の大学でスクリャーピンのマスタークラス予定です。マスタークラスは、スクリャーピンのピアノを弾くことになっているのは全曲弾いて録音しているが理解したことを若い人が理解したことを若い人たることはとてもうれしく、です！」